

<p>大学院博士前期課程</p>	<p>ディプロマポリシー</p>	<p>博士前期課程に2年以上在学して所定の単位を修得し、授業や研究活動を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して修了を認定し、修士(情報学)の学位を授与する。</p> <p>1) 幅広い教養を持ち、社会をより豊かにするために情報科学が果たすべき役割を理解するとともに、情報技術者として果たすべき役割の自覚と倫理観および地球の視点からの的確な判断・行動ができる。</p> <p>2) 情報科学の要素技術や情報システムの高度な専門技術を身につけ、問題解決にアプローチでき、ハードウェア、ソフトウェア、システム的设计および実装を行うことができる。</p> <p>3) 自分の考えや研究成果を正確かつ論理的に伝えプレゼンテーション能力および国際的に通用するコミュニケーション能力を持つ。</p> <p>4) 情報を整理・分析し、問題解決のための計画・方策を立案して主体的かつ継続的に実行できる。</p> <p>なお、学修・研究について顕著な成果が認められる者については、在学期間を短縮して博士前期課程を修了することができます。</p>	<p>情報科学特論D 1</p> <p>情報科学特論B 1</p> <p>情報数学特論B 1</p> <p>情報数学特論A 1</p> <p>情報科学特別講義C 1</p> <p>情報科学特別講義A 1</p> <p>情報科学特論C 1</p> <p>情報科学特論A 1</p> <p>情報科学特論D 1</p> <p>情報科学特別講義D 1</p> <p>情報科学特別講義B 1</p> <p>生体情報処理特論B 1</p> <p>生体情報処理特論A 1</p> <p>情報セキュリティ特論II 1</p> <p>情報セキュリティ特論I 1</p> <p>情報セキュリティ特論II 1</p> <p>情報セキュリティ特論I 1</p> <p>分散情報システム特論 1</p> <p>知能情報システム論 2</p> <p>情報ネットワーク特論II 1</p> <p>情報ネットワーク特論I 1</p> <p>分散情報システム特論 1</p> <p>通信ネットワーク構成論A 1</p> <p>通信ネットワーク構成論B 1</p> <p>システム最適化理論 2</p> <p>ヒューマンインタフェース特論 2</p> <p>制御システム特論 2</p> <p>知識ネットワーク特論 2</p> <p>ソフトウェア構成論II 1</p> <p>ソフトウェア構成論I 1</p> <p>ソフトウェア工学特論 1</p> <p>ソフトウェア工学特論 1</p> <p>情報科学演習(学内) 2</p> <p>情報科学演習(海外) 2</p> <p>情報科学研究(2選年科目)</p> <p>インターンシップ 1</p> <p>●必修科目</p>
<p>大学院博士前期課程</p>	<p>ディプロマポリシー</p>	<p>情報科学分野の社会的ニーズに応えるため、国際的に通用する高度な知識と創造的な能力に富み、また起業家精神をもった情報技術専門職業人を育成することを目標としてクオータ制のもと「情報基盤」、「情報専門」、「実習」、「研究」の各領域を設けてカリキュラムを編成する。</p> <p>1) 「研究」領域では、「情報科学研究」として特定の研究テーマについて研究し、修士論文として発表できる能力を養う。</p> <p>2) 研究科の特徴的な領域として位置づけている「実習」では「情報科学演習(学内)」や「情報科学演習(海外)」、「インターンシップ」などの科目を通じた実習を行い、広い視野と実践的技術力を養う。</p> <p>3) 社会的な課題に対してクラウド技術等を活用できる技術者育成を目指して、関西圏の他大学院とも連携したアクティブラーニング型教育により実践力と応用力を高める。</p> <p>情報科学専攻科では、情報分野において高い専門性を必要とする業務を遂行するために必要な能力、およびその基礎となる学識を養い、時代の要請を的確に把握し、国際的に活躍できる高度情報技術者ならびに専門職業人の養成を教育理念としており、この理念に沿った学生を受け入れます。</p> <p>＜求める人物像＞</p> <p>1) 情報分野における高度な専門的知識や実践的技術の修得をめざす人</p> <p>2) 情報分野の第一線で活躍する研究・開発者をめざす人</p> <p>3) 進取の気性に富み、国際的な活動や起業家精神を生かした活動をめざす人</p> <p>4) 能動的に学修や研究、実践的活動を遂行できる人</p>	<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を有すると判断される学生に対して卒業を認定し、学士(情報学)の学位を授与する。</p> <p>＜情報科学部＞</p> <p>【1】各種システムを開発することのできる専門能力</p> <p>1) 数学・自然科学など理工系の専門基礎知識、およびハードウェア・ソフトウェア・システムに関する専門知識を持ち、高度情報化社会のためのシステム開発に活用できる。</p> <p>2) 豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力や正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、他者と協働して活動できる。</p> <p>【2】自然と人間が共生する、豊かで安心できる社会の実現に必要な人間力</p> <p>3) 自然、社会、文化に対する広い人間的素養を持ち、地球的視野で物事を考え行動できる。</p> <p>4) 責任感、倫理観、実行力を持ち自律的に判断し行動できる。</p> <p>5) 新しいものごとへの強い関心・興味を持ち、自主的・継続的に学習することができる。</p> <p>＜情報メディア学科＞</p> <p>A) 情報人とメディアの関わりや情報メディアが社会に与える影響を理解した上で、社会に果たすべき役割と責務を自覚し行動できる。</p> <p>B) 情報メディア分野で提示される問題を解決するために、主体的・計画的・持続的に取り組むことができる。</p> <p>C) 情報伝達を行う媒体である情報メディアに関する理論的・実践的なIT基礎技術を理解し、応用することができる。</p> <p>D) メディア技術を利用することで、人間中心の考え方をとじた情報環境を創出することができる。</p> <p>E) 自らの考えを伝達するため、情報メディアの特性を利用した効果的なプレゼンテーションおよびコミュニケーションを行うことができるとともに、他者と協働して活動することができる。</p>
<p>ディプロマポリシー</p>	<p>ディプロマポリシー</p>	<p>グローバル化の時代に対応できる社会人のための素養を身に付け、幅広い視野の人文的素養、ならびに言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を講じている。</p> <p>社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、物理学をはじめとする自然科学関連の基本的知識を理解・応用し、科学的知見に基づく思考・判断ができる。</p> <p>自分自身の主体的な取り組みについて理解し、自律的な行動が取れる。さらに社会的な出来事への関心を高め、社会に対して自分がどの様に貢献出来るか考えることができる。そしてこれを受け、自分自身の将来像を明確化した上で今後の勉強ならびに就職活動につなげることができる。</p> <p>専門科目を学ぶ上で必要となる数学の基礎を固める。</p> <p>コンピュータのハードウェア、ソフトウェアならびにネットワークの原理・仕組みを理解し、説明することができる。同時に、メディアシステムなどの情報システムを構築するために必要となる、データ構造やアルゴリズム、データベース、情報セキュリティ、ソフトウェア開発技術などの基礎的知識・技術を身につける。</p> <p>メディアデータと特性を説明でき、コンピュータグラフィックス、画像処理、音響のメディア情報処理の基本技術とヒューマンインタフェースや感性情報処理などの人間中心の設計理論・実現技法を理解し、説明できる。同時に、情報技術が社会に与える影響を理解したうえで、情報技術者としての倫理的・社会的責任について認識できる。</p> <p>より実践的なメディア情報技術を習得するため、高度な画像情報処理、音声情報処理、コンピュータグラフィックス、メディアインタフェース、Web技術などの応用技術を理解し、説明できる。</p> <p>プログラミングの演習や、種々のメディアを使用した実験を通して、学んできた知識・技術を現実の問題に応用することができる。</p>	<p>卒業に必要な単位数 124単位 (専門科目70単位)</p>
<p>学部</p>	<p>ディプロマポリシー</p>	<p>4 (3-4年次)</p> <p>【人文社会科学】 情報法(2) 【外国語】 英語の読解(2) 英語による情報技術II(2) 英語演習(1) 【健康・スポーツ科学】 健康科学(2) スポーツ科学実習(1)</p> <p>(1-2年次) 【人文社会科学】 倫理学基礎(2) 人類の歴史(2) 言語学基礎(2) 人間発達と人間(2) 哲学基礎(2) 社会学基礎(2) 情報社会学(2) 応用倫理(2) 日本の歴史(2)</p> <p>文学基礎(2) 観る文学(2) 日本国語(2) 法學基礎(2) 経済学基礎(2) 現代経済論(2) 心理学基礎(2)</p> <p>【外国語】 英語表現(basic 1)a(1) 英語表現(basic 1)b(1) 英語表現(basic 2)a(1) 英語表現(basic 2)b(1) 英語表現II a(1) 英語表現II b(1) 英語による情報技術I a(1) 英語による情報技術I b(1) 【健康・スポーツ科学】 基礎スポーツ科学(1)</p> <p>(4年次) 科学史(2)</p> <p>(1-2年次) 物理学基礎(2) 力学(2) 電磁気学(2) 物理現象の数理(2) 現代物理学入門(2) 化学基礎(2) 環境情報科学(2) 地球科学基礎(2) 地球環境(2) 生命科学基礎(2) 情報生命科学(2) 観る自然科学(2)</p> <p>(1-2年次) 基礎ゼミナール(1) キャリアステップ(1) キャリアデザインI(1) キャリアデザインII(1) グローバルテクノロジー論(1) OT概論(1)</p> <p>微積分学II 2</p> <p>線形数学II 2</p> <p>確率・統計 2</p> <p>数値計画法 2</p> <p>オートマトンと形式言語 2</p> <p>プログラミング言語論 2</p> <p>ソフトウェア工学II 2</p> <p>情報セキュリティの基礎 2</p> <p>データ構造とアルゴリズムII 2</p> <p>システムプログラミング 2</p> <p>アセンブリ言語 2</p> <p>情報数学 2</p> <p>グラフ理論 2</p> <p>周波数解析 2</p> <p>微分方程式 2</p> <p>微積分学I 2</p> <p>線形数学I 2</p> <p>データ構造とアルゴリズムI 2</p> <p>情報通信ネットワーク 2</p> <p>計算機アーキテクチャ 2</p> <p>プログラミング入門 2</p> <p>コンピュータリテラシー 2</p> <p>コンピュータ入門 2</p> <p>ソフトウェア工学I 2</p> <p>オペレーティングシステム 2</p> <p>データベースシステム 2</p> <p>テクニカルライティング 2</p> <p>デジタル回路 2</p> <p>情報処理基礎 2</p> <p>ヒューマンインタフェース 2</p> <p>情報ゼミナール 2</p> <p>情報技術者論 2</p> <p>色彩学 2</p> <p>画像情報処理II 2</p> <p>音声情報処理 2</p> <p>Webデザイン 2</p> <p>コンピュータグラフィックスII 2</p> <p>CAD 2</p> <p>メディアインタフェース 2</p> <p>構造化文書処理 2</p> <p>画像情報処理I 2</p> <p>感性情報処理 2</p> <p>人間情報学 2</p> <p>メディアデータ論 2</p> <p>CSプロジェクト実習 1</p> <p>情報メディア演習III 2</p> <p>情報メディア演習II 2</p> <p>ソフトウェア工学演習 2</p> <p>情報メディア演習I 2</p> <p>Java演習 3</p> <p>C演習II 3</p> <p>C演習I 3</p> <p>情報メディア入門 1</p> <p>アニメーション演習 1</p> <p>●必修科目 ■選択必修科目</p>	<p>卒業研究</p>
<p>ディプロマポリシー</p>	<p>ディプロマポリシー</p>	<p>情報科学分野の社会的ニーズに応えるため、国際的に通用する高度な知識と創造的な能力に富み、また起業家精神をもった情報技術専門職業人を育成することを目標としてクオータ制のもと「情報基盤」、「情報専門」、「実習」、「研究」の各領域を設けてカリキュラムを編成する。</p> <p>1) 「研究」領域では、「情報科学研究」として特定の研究テーマについて研究し、修士論文として発表できる能力を養う。</p> <p>2) 研究科の特徴的な領域として位置づけている「実習」では「情報科学演習(学内)」や「情報科学演習(海外)」、「インターンシップ」などの科目を通じた実習を行い、広い視野と実践的技術力を養う。</p> <p>3) 社会的な課題に対してクラウド技術等を活用できる技術者育成を目指して、関西圏の他大学院とも連携したアクティブラーニング型教育により実践力と応用力を高める。</p> <p>情報科学専攻科では、情報分野において高い専門性を必要とする業務を遂行するために必要な能力、およびその基礎となる学識を養い、時代の要請を的確に把握し、国際的に活躍できる高度情報技術者ならびに専門職業人の養成を教育理念としており、この理念に沿った学生を受け入れます。</p> <p>＜求める人物像＞</p> <p>(1) 新しい知識を創出できるシステムづくりに関与がある人</p> <p>(2) 図形・画像・映像・音・言語メディアのデジタル処理や表現手法に興味のある人</p> <p>(3) 人間と情報のかかわりに興味のある感性豊かな人</p>	<p>年間履修上限単位数 44単位</p>

# 情報メディア学科 カリキュラムフローチャート (2012~2017年度入学生)

カリキュラムポリシー		1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマポリシー		
<b>メディア処理/メディアシステム系</b>	文字・図形・画像・映像・音などのメディア処理技術とそれらに基づくシステム開発技術を学ぶ。	●情報メディア入門	●コンピュータグラフィックス I メディアデータ論	●画像情報処理 I ●音響処理	メディアコンピューティング CAD 空間情報処理 構造化文書処理	●画像情報処理 II ●音声情報処理 映像技術演習 コンピュータグラフィックス II メディアインタフェース	<b>情報メディア学科ディプロマポリシー</b>	<b>情報科学部ディプロマポリシー</b>
<b>人間情報学系</b>	人とシステムのインタフェース環境を構築する技術を身に付けるとともに、新しい体験を創造したり、豊かな生活を支援する技術を学ぶ。	人間情報学		ヒューマンインタフェース Webデザイン	感性情報処理 色彩学	1) 情報人とメディアの関わりや情報メディアが社会に与える影響を理解した上で、社会に果たすべき役割と責務を自覚できる。	1) 各種システムを開発することができる専門能力を獲得できる。	
<b>専門共通</b>	メディア情報学を学ぶ上で基礎となる情報学の共通技術を習得します。情報技術者としての専門共通科目です。	●計算機アーキテクチャ ●データ構造とアルゴリズム I ●信号処理	●オペレーティングシステム ●データベースシステム ●ソフトウェア工学 I ●アセンブリ言語	●情報セキュリティ ●ソフトウェア工学 II ●システムプログラム ※データ構造とアルゴリズム II	●プログラミング言語論	2) 情報メディア分野で提示される問題を解決するために、主体的・計画的・持続的に取り組むことができる。	数学・自然科学など理工系の専門基礎知識、およびハードウェア・ソフトウェア・システムに関する専門知識を持ち、高度情報化社会のためのシステム開発に活用できる。	
<b>専門基礎</b>	メディア情報学の基礎となる情報学の専門基礎技術を学びます。	●コンピュータ入門 ●プログラミング基礎 ※デジタル回路 ●テクニカルライティング (情報処理基礎)	●情報通信ネットワーク (情報処理基礎)	●オートマトンと形式言語 (情報処理基礎)		3) 情報伝達を行う媒体である情報メディアに関する理論的・実践的なIT基礎技術を理解し、適応することができる。	豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力や正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、他者と協働して活動できる。	
<b>数理科学</b>	メディア情報学を学ぶ上で必要となる数学を学びます。	●線形数学 I ●微積分学 I	●微分方程式 ●グラフ理論 ●周波数解析	●情報数学 ●確率・統計	●線形数学 II ●微積分学 II ●数理計算法	4) メディア技術を利用することで、人間中心の考え方をもちとした情報環境を作り出すことができる。	2) 自然と人間が共生する、豊かで安心できる社会の実現に必要な人間力を獲得できる。	
<b>演習・ゼミナール系</b>	人間中心の考え方をもちとした情報環境をつくりだす実践的なメディア技術を習得するとともに、新しい情報メディア技術を創造する。	エレクトロニクス基礎 (2013年度以降開講せず) コンピュータリテラシー	●C演習 I ●C演習 II	●Java演習 ●ソフトウェア工学演習	●情報ゼミナール ●情報メディア専門演習	5) 自らの考えを伝えるため、情報メディアの特性を利用した効果的なプレゼンテーションおよびコミュニケーションを行うことができる。	自然、社会、文化に対する広い人間的素養を持ち、地球的視野で物事を考えることができる。	
<b>キャリア支援系</b>	情報メディア技術を学んでいくには、人とメディアの関わりや情報メディアが社会に与える影響を理解した上で、社会に貢献する考え方を学ぶ。	基礎ゼミナール*	キャリアステップ	キャリアデザイン I キャリアデザイン II	●情報技術者論 特別講義	自律的に判断し行動できる責任感、倫理観、実行力を持つ。	新しいものごとへの強い関心・興味を持ち、自主的・継続的に学習することができる。	
<b>総合人間学系</b>	人文社会学	倫理学基礎 人類の歴史 言語学基礎(前期or後期)	心理学基礎(前期or後期) 日本の歴史 宗教文化史 文学基礎(前期or後期) 親る文学(前期or後期)	哲学基礎 応用倫理学 社会学基礎 情報社会論 法学基礎 情報法学	科学技術と産業政策(前期or後期) 産業政策概論(前期or後期)			
	語学	英語表現(basic1)a 口語英語Ia 日本語I 海外語学研修(前期or後期)	英語表現(basic1)b 口語英語Ib 日本語II 英語による情報技術Ia 英語による情報技術Ib 英語による情報技術Ic 海外語学研修(前期or後期)	英語表現(basic2)a 口語英語IIa 英語の語法 英語による情報技術II 海外語学研修(前期or後期)	基礎スポーツ科学a 基礎スポーツ科学b スポーツ科学実習 健康科学			
	健康科学							
<b>総合理科学系</b>	自然科学・総合	生命科学基礎 化学基礎(前期or後期) 環境情報科学(前期or後期) 物理学基礎 力学(前期or後期) 地球科学基礎	情報生命科学 電磁気学 物理現象の数理	現代物理学入門 視る自然科学	科学史			

●: 必修科目、■: 選択必修科目(CS必修) \* 領域区分は共通科目 ※ 2013年度以降入学生は選択科目

1年終了時での目安となる履修・修得単位数	2年終了時での目安となる履修・修得単位数	3年終了時での目安となる履修・修得単位数	卒業要件
共通科目及び1年次配当の専門科目の中から、専門の必修科目10単位を含め、40単位以上を修得することが望ましい。  【コンピュータ・サイエンスコース選択要件】 ① 2年次であること ② 履修申請時において次の科目を修得していること 線形数学 I コンピュータ入門 プログラミング基礎 (2012年度入学生) C演習 I	共通科目及び1~2年次配当の専門科目の中から、専門の必修科目4単位を含め、80単位以上を修得することが望ましい。  【情報ゼミナール履修要件】 総修得単位数62単位以上	共通科目及び1~3年次配当の専門科目の中から、専門の必修科目8単位を含め、120単位以上を修得することが望ましい。  【卒業研究履修要件】 次の要件をすべて充足していること イ. 総合人間学系 20単位 ロ. 総合理科学系 10単位 ハ. 専門科目 70単位(必修科目12単位、選択必修科目12単位を含む) ニ. 総計 100単位以上(教職に関する科目の単位は除く) ホ. 情報ゼミナールの単位を修得している	【卒業要件】 「総合コース」 人文社会科学 14単位 外国語 8単位 健康・スポーツ科学 2単位 総合理科学系 14単位 専門科目(必修) 26単位 専門科目(選択) 60単位(選択必修科目12単位を含む) (合計) 124単位  「コンピュータ・サイエンスコース」 人文社会科学 14単位(コース選択必修科目12〔8〕単位を含む) 外国語 8単位 健康・スポーツ科学 2単位 総合理科学系 14単位(コース選択必修科目8〔6〕単位を含む) 専門科目(必修) 26単位 専門科目(選択) 60単位(選択必修科目46〔42〕単位を含む) (合計) 124単位 〔 〕は2013年度以降入学生

※科目名の前の●は必修科目、■は選択必修科目(CS必修)を示す。

# 情報メディア学科 カリキュラムフローチャート (2011年度以前入学生)

領域	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	線形数学Ⅰ 微積分Ⅰ	微分方程式	グラフ理論 確率・統計	情報数学		数理計画法		線形数学Ⅱ 微積分Ⅱ
	●コンピュータ入門	デジタル回路 アナログ回路						
	Unix入門	プログラミング基礎 C演習Ⅰ  (情報処理基礎)	計算機アーキテクチャ  Java演習	システムプログラム データベースシステム  アセンブリ言語 C演習Ⅱ ソフトウェア工学Ⅰ  (情報処理基礎)	オペレーティングシステム  オートマトンと形式言語 データ構造とアルゴリズム ソフトウェア工学演習 ソフトウェア工学Ⅱ		プログラミング言語論  構造化文書処理 (情報処理基礎)	
			コンピュータグラフィックスⅠ メディアデータ論  周波数解析	画像処理  音声・音響処理 信号処理	アニメーション		コンピュータグラフィックスⅡ CAD	
					空間情報処理		モデリングとシミュレーション 知識ネットワーク	
			色彩学	人間情報学	ヒューマンインタフェース コミュニケーションデザイン		感性情報処理	
		通信理論		情報通信ネットワーク	情報セキュリティ		アドバンスドネットワーク	
	エレクトロニクス基礎 コンピュータリテラシー 基礎ゼミナール	キャリアデザイン	●テクニカルライティング		●情報メディア基礎演習		●情報メディア専門演習  ●情報ゼミナール ●情報技術者論	知的財産法概論 ●卒業研究 特別講義
共通科目	倫理学基礎	人類の歴史	心理学基礎(前期or後期) 日本の歴史	哲学基礎 応用倫理学 宗教文化史				
	言語学基礎(前期or後期)		文学基礎(前期or後期)	情報社会論 法学基礎 現代経済論	情報法学 科学技術と産業政策(前期or後期)		産業政策概論(前期or後期)	
	人間発達と人権		社会学基礎 日本国憲法 経済学基礎(前期or後期)					
	英語表現Ⅰa 口語英語a 日本語Ⅰ 海外語学研修(前期or後期)	英語表現Ⅰb 口語英語b 日本語Ⅱ	英語表現Ⅱa 実践英語Ⅰa 英語による情報技術a 海外語学研修(前期or後期)	英語表現Ⅱb 実践英語Ⅰb 英語による情報技術b	英語表現Ⅲa 実践英語Ⅱa	英語表現Ⅲb 実践英語Ⅱb		
健康科学	基礎スポーツ科学a		健康科学	基礎スポーツ科学b	スポーツ科学実習			
自然科学・総合	生命科学基礎 化学基礎(前期or後期) 物理学基礎 力学(前期or後期) 地球科学基礎	情報生命科学 環境情報科学(前期or後期) 電磁気学	物理現象の数理			科学史		

1年終了時での目安となる履修・修得単位数	2年終了時での目安となる履修・修得単位数	3年終了時での目安となる履修・修得単位数	卒業要件
共通科目及び1年次配当の専門科目の中から、専門の必修科目2単位を含め、40単位以上を修得することが望ましい。  <b>【コンピュータ・サイエンスコース選択要件】</b> ①2年次であること ②履修申請時において次の4科目を修得していること 線形数学Ⅰ コンピュータ入門 プログラミング基礎 C演習Ⅰ	共通科目及び1～2年次配当の専門科目の中から、専門の必修科目4単位を含め、80単位以上を修得することが望ましい。  <b>【情報ゼミナール履修要件】</b> ①総修得単位数55単位以上 ②次の7科目18単位の中から12単位以上修得していること プログラミング基礎 2単位 計算機アーキテクチャ 2単位 システムプログラム 2単位 Unix入門 2単位 コンピュータリテラシー 2単位 C演習Ⅰ 4単位 Java演習 4単位	共通科目及び1～3年次配当の専門科目の中から、専門の必修科目12単位を含め、120単位以上を修得することが望ましい。  <b>【卒業研究履修要件】</b> 次の要件をすべて充足していること イ. 総合人間学系 20単位 ロ. 総合理學系 10単位 ハ. 専門科目 70単位(必修科目8単位、選択必修科目12単位を含む) ニ. 総計 100単位以上(教職に関する科目の単位は除く) ホ. 情報ゼミナールの単位を修得している	<b>【卒業要件】</b> 「総合コース」 人文社会科学 14単位 外国語 8単位 健康・スポーツ科学 2単位 総合理學系 14単位 専門科目(必修) 16単位 専門科目(選択) 80(70)単位(選択必修科目12単位を含む) (合計) 134(124)単位  「コンピュータ・サイエンスコース」 人文社会科学 14単位(コース択必修科目12単位を含む) 外国語 8単位 健康・スポーツ科学 2単位 総合理學系 14単位(コース択必修科目8単位を含む) 専門科目(必修) 16単位 専門科目(選択) 80(70)単位(選択必修科目56単位を含む) (合計) 134(124)単位

※科目名の前の●は必修科目を示す。

※単位数の後の( )の単位数は、2011年度入学生に適用する。